



馬の学校

馬の学校通信

2014. 12 vol.56

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX:052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : http://www.horseschool.org



ありがとう、ネット&シャノン

小須田牧場で活躍してくれていたネットが9月に、シャノンが11月に亡くなりました。ネットは31歳、シャノンは23歳でした。

ネットは超ベテランのポニーで、驚いている姿を見たことがないぐらいの落ち着きがありました。ネットとの思い出で忘れられないのは、草競馬。大学4年生の秋、長野県望月駒の里で行われた草競馬大会にネットと共に出場しました。結果は惜しくも2位でしたが、馬を御すことの難しさと楽しさを教えてくれました。また、ウマキャンプでは、初めて馬に触れる子どもや、ちょっと大きな馬は怖いなあとと思っている子どもでも、ネットなら安心して任せることができました。

シャノンは中間種で大きな馬でしたので、よく親子を乗せての引き馬を担当したことを思い出します。シーザーと隣同士の馬房になることが多く、エサの時間になると「僕が先!」「私が先!」とよく争っていました(笑)。ウマキャンプでは、初参加でも大きな馬を担当してみたいという子どもたちや経験のある子どもたちが担当することが多かったです。

多くの子どもたち(と大人も)の「初体験」をそっとサポートしてきてくれたネット、「チャレンジ」を支えてくれたシャノン、どうか安らかに・・・。



秋のプログラム 活動報告

馬とのふれあいプログラム (11/8)

11月8日のふれあいプログラムは3名で行いました。2名は初参加、1名はウマキャンプ参加経験者でした。いつもとは順序が異なり、まず最初に馬に乗ってから、馬小屋掃除、ブラシゲを行いました。



馬とのふれあいプログラム (11/9)

11月9日のふれあいプログラムは、5名の参加で行いました。1名は2回目、他の4名は初参加でした。2頭いるポニーうちの1頭がケガをして乗馬ができないとのことで、5歳以上の子どもたちはサラブレッドに乗ることに! 大きいですし、怖がるかなと心配しましたが、「大きな馬に乗れる〜♪」と喜んでくれたのでほっとしました。





馬のおもちゃ⑥ オーナメント

ドイツのクリスマスマーケットでは、たくさんのオーナメントが売られています。9年前、12月にドイツを訪れた際、あちらこちらのクリスマスマーケットに通って買い集めたものを、今年初めてクリスマスツリーに飾りました。お気に入りにはザイフェンで作られた、馬がそりを引くオーナメント。とても細かな作りで、色も鮮やかながら木の温かみがあります。その他

も馬のものばかりなので、娘は「パカパカ」と言いながら、飾り付けを楽しんでいました。



馬のおもちゃ⑦ おすすめの本

『ウマがうんこした』 そうえん社

幸田幸広・しゃしん ゆうきえつこ・ぶん

タイトル通り、ウマがうんこしている場面の写真がたくさん！ウマはよくうんこをしますが、その意味をわかりやすく教えてくれる絵本です。写真の舞台は宮崎県の都井岬。写真家の幸田さんは「あっ、うんこした」、「あっちでも、うんこした」と丘の上で叫びながら撮影し、本タイトルはその時の叫び声から付けたものだそうです。娘もお気に入りの1冊です。



馬の郷土玩具・民芸品 (5)

＜春駒 (愛知)＞

「春駒」は、名古屋城を鎮護する古寺のひとつ、龍泉寺に伝わる縁起物です。ご本尊の馬頭観音にあやかり、張子の馬の頭が割り竹の串に付けられ、振るとカラカラ、いい音がします。

春駒という軽やかな呼び名は、一説には、「張り子の駒」が略されて、「張り駒」になり、縁起がよい「春」にかけて、春駒に転じたものといわれています。龍泉寺付近では、2月3日の節分に春駒を玄関に飾り、魔除けにしました。



＜立絵馬 (奈良)＞

日本の神社では、古くから祈願祈禱のため、生きた馬を奉納する風習がありました。やがて、納められるのは土の馬形や板立馬へと変化し、これが今日の絵馬の原型とされています。

奈良・手向山八幡宮で授与される「立絵馬」は、板立馬の姿を今に伝えていきます。

現在、一般的な、願いごとを書いてつるす絵馬とは異なり、家に持ち帰って飾る人がほとんどだという「立絵馬」。中央には神職の手で、神様が座するための由緒ある鞍が絵付けされています。馬をかたどった独特の形や表情が印象的な、古式ゆかしい縁起物です。



参考文献：『天然生活』2014年2月号

編集後記

秋のプログラムでは、春よりも参加者が増え、たくさんの子どもの笑顔が見られました。

その笑顔に周囲で見守る保護者の方々も笑顔になり、私たちスタッフもたくさんの元気をもらえました。今回は直前の変更などで子どもたちが不安に感じることがないかという心配がありましたが、ボランティアの方々の臨機応変で丁寧な対応に助けられ、無事に終えることができたことに感謝しています。子どもと馬との間に入る“人”の大切さを改めて感じたプログラムでした。

娘はもうすぐ2歳、自己主張、意思表示もとてもはっきりとしてきました。かつて小須田牧場で馬の調教をさせてもらっていたとき、「馬がそうなるように(工夫)することが大切」と言われていたことが、子育てにも通じる部分があると感じる日々です。

(峯崎 友香理)

